2022 年前期・進捗報告（実行団体）

● 提　出　日　：　２０２２年１０月２０日
● 事　業　名　：　若者の木造建築学習を通じた山村再生事業
● 資金分配団体　：　一般財団法人中部圏地域創造ファンド
● 実 行 団 体　：　学生団体　加子母木匠塾

① 実績値＝原則、2022 年 4 月～9 月末の実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況 （実施した活動内容も５Ｗ１Ｈや、参加人数等もわかるように書いてください＝別紙一覧でも可）	進捗状況 ＊
1. 社会人としての必要なスキルアップと過疎地域の活性化に取り組む状況が生まれる。	①研修会の実施回数　②研修会の参加者数 ③カリキュラムの作成	①　年間 5 回 ②　200 人 ③　あり	2023 年 3 月	コロナ禍での活動となったが、8 大学から４０２名もの学生のエントリーとなった。感染防止最優先のため、現地での活動は人数を制限しての活動となったが、メインとなる 8 月の活動には１６９名、4 月～9 月の 5 回のリーダー研修（幹事会）には計１２０名が参加した。毎月の研修会では、地元の大工職人を招いての技術講習や、草刈り作業や農業用水路の整備、森林学習などのフィールドワークを積極的に行い、加子母及び馬瀬地域の住民からも高い評価を得ることができた。	2 計画どおり進んでいる
2. 事業を継続、発展させていくために OB 会組織を強化する。	①OB 会への登録者数 ②OB 会活動参加者数	①500 人 ② 年間延べ 300 人	2023 年 3 月	① 木匠塾 OB 会の登録者数は現時点で約 150 名。引き続き SNS を通じ呼びかけを行っている。 ② OB 会活動は、2 年後の活動 30 周年に向け、活動の意義や歴史をまとめ発刊する計画で、毎月の定例ミーティング（9 回・延 65 名参加）を行い、準備を進めている。 また、今年度は OB の働きかけにより、7 月１６日に東京大学のレクチャー「つくるとは、」をかしも明治座で実施し、「教育と建築」についての学びを深めた。	2 計画どおり進んでいる

3. 集落の機能維持活動や地域行事に学生、OB が継続的に参加する。	①集落の機能維持活動への学生及び OB の参加者数 ②地域行事への学生及び OB の参加者数	① 30 人 ② 年間延べ 500 人	2023 年 3 月	① 現地での活動が制限され、数量的に目標を達成することは困難であったが、総幹事が拠点施設である松屋に長期的に滞在しながら地域住民とのつながりを広げた。４月には農業用水路の清掃作業や、７月～8 月にかけては、馬瀬地区で展開した馬瀬川プロデュースや aichikara の活動と協働し遊休農地などの草刈り作業なども行った。 ② コロナ禍により今年も多くの地域行事が中止になり地域住民と交流する機会は制限されたが、加子母地域の伝統文化である加子母歌舞伎に木匠塾の学生が２名が役者として出演することになり、１１月の公演に向け稽古を重ねている。	3 計画より遅れている
4. 学生や OB が主体となり地域の将来について考え、地域への提案などを行う。	①アンケート調査実施回数 ②学生及び OB から地域への提案プラン件数	① 1 回 ②3 件	2023 年 3 月	現地での活動を踏まえた上で、現在アンケートの準備を進めている。また森林空間利用や木材の利用拡大に向けた活動として、今後の木匠塾活動が展開していけるよう、現在プラン作りを進めており、１１月に中津川市役所農林部と意見交換を行う予定となっている。	3 計画より遅れている
5. 木造建築実習を通じて、国産材利用の重要性を学びながら、地域施設を整備する。	①地域要望に基づいた整備箇所数	年間 10 件程度	2023 年 3 月	地域要望に基づき施設の整備を計画していたが、やはり地域へのコロナ感染拡大が心配されたため、加子母地域内では今年度はベンチ製作（全８台）に取り組んだ。馬瀬地内では観光拠点である水辺の館に設置する木製カウンターの試作を行った。 ４月には加子母森林組合長から林業についての勉強会を行い２１名が参加した。また、５月にはプロの大工職人の指導により、道具の手入れ、扱い方、加工の仕方など講習会を実施してもらい２９名が参加した。	2 計画どおり進んでいる

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 ☑変更なし　☐短期アウトカムの内容　☐短期アウトカムの表現　☐短期アウトカムの指標　☐アウトカムの目標値
3.（任意）活動に関する報告
今年度も常に新型コロナ感染拡大防止を意識しながらの活動となった。ここ２年オンラインを中心とした活動であったため、直接現地へ行ったことがある学生も少なく、今年現地での活動ができなかったら来年度以降「木匠塾」の活動を継続していくことが困難になるという危機感を抱きながら活動を行った。例年お世話になっている工務店、そして地域にコロナを持ち込むこむことのないよう事前の体調管理、検査を徹底することにより、受入れに対して理解していただけるように努めた。従来通りとはいかないにしても、収穫体験作業や郷土料理づくり体験など地域住民の方との交流イベントも開催でき、地域住民の方々も活動に対して理解をしてくださる方が増え信頼関係が築かれていることが実感できた。 また、今年度は特に馬瀬地域での活動に重点を置き、前年度伐採したホダ木にシイタケ菌を植菌したり、草刈り作業やキャンプ場や体験交流施設の環境整備にも関わることができ、馬瀬地域内での活動に対する認知度は高まったと感じている。

③　広報に関する報告

1.　シンボルマークの使用状況
☐自団体のウェブサイトで表示している　　☑広報制作物に表示している ☐報告書に表示している　☑イベント実施時に表示している　☐その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2.　広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等） 岐阜新聞掲載 2.広報制作物等 木匠通信の発行 3.報告書等 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等） 東大連続レクチャー「つくるとは、」の開催

添付資料

活動の写真（画像データは 1 枚 2 MG 以下、3～4 枚程度）

4/17「林業講話」幹事会にて

5/21「技能講習」幹事会にて

5/22「技能講習」幹事会にて

8/26「製作したベンチと共に」閉校式にて